

第4学年国語科指導案

1 日 時 令和3年 11月 19日 (金) 2校時 (9:35～10:20)

2 学年・組 第4学年1組 (30名)

3 単元名 新美南吉の世界をたんけん！～ビブリオバトルをしよう～
「ごんぎつね」

4 単元の目標

- (1) 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，語彙を豊かにすることができる。((1) オ) (知識及び技能)
- (2) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。(C (1) カ)
登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(C (1) エ) (思考力，判断力，表現力等)
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力，人間性等)

5 単元で取り上げる言語活動

物語を読んで，自分が考えたことを (ミニ) ビブリオバトルを通して伝え合う。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使っていると同時に，語彙を豊かにしている。 ((1) オ)	① 「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C (1) カ) ② 「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C (1) エ)	① 進んで，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付き，見通しをもって物語を読み，自分が考えたことを伝え合おうとしている。

7 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、これまでに「白いぼうし」「一つの花」の学習において、一人一人が疑問に思ったことを出し合い学習課題を作り、叙述を基に登場人物の心情の変化等を読み取る学習を行ってきた。本文に着目させ、根拠をはっきりさせてから自分の考えをもつようにしてきたが、叙述を基に考えることができていなかったり、叙述のみにとどまって自分の考えが含まれていなかったりする児童もいる。そこで、自分の考えを伝え合う言語活動を取り入れることで、自分とは違う考え方に気付いたり、新たな発見をしたりできるようにしてきたことにより、自分の考えや思いを表現できるようになってきていると感じる。一方で、一人一人の感じ方の違いを理解したり、認めたりすることが難しい児童もいる。また、自分の考えを伝えるだけにとどまり、友達の見解を聞いていなかったり、自分の考えと友達のことを比較して、さらに考えを深めたりできる児童はまだ少ない。

また、読書をした後に記述する「読書の記録」で、様子や行動、気持ちを表す語句（「言葉のたから箱」）を使用して記述したり話し合ったりする活動を取り入れているが、習得している語彙が不十分な児童が多い。「言葉のたから箱」をいつでも確認できるようにしたり、分からない言葉は辞書で調べたりして、語彙を増やし、さらにその語句を正しく使って文を作るなどの活動を繰り返し行っている状況である。

(2) 教材観

本教材は、「ごん」のひたむきな思いや行動に、児童が寄り添いながら読むことができる物語である。ちょっとしたいたずら心が思わぬ影響を及ぼしてしまうこと、せめてもの償いをという切ない思い、一方的な共感、無私のはずの償いの行為の底にも認められたい思いがあること等々、どれもが「人間」という存在の底にあるものである。自我が芽生えようとするこの時期に、自分の心の奥をのぞく体験をさせるのに適した教材である。また、想像力を高めさせることにもつながると思われる。さらに、それが今後の人間理解や仲間づくりにも役立っていくものと考えている。

(3) 指導観

「ごんぎつね」では、場面の様子や登場人物の行動、気持ちや性格を表す言葉を取り上げ、言葉の意味を調べたり他の言葉と比較したりする中で、語彙量を増やしていきたい。場面の展開に沿って人物の気持ちの変化を想像しながら読む力も育てていきたいと考える。そのため、場面ごとに区切って気持ちを考えるのではなく、物語全体から考えていくようにしていきたい。また、情景を表す語句にも着目し、叙述を根拠に考えていきたい。伝え合いの場面では、付箋を使い、自分の考えとの共通点・相違点を相手に伝え、感じ方の違いを視覚化できるようにする。そして、伝え合いの後には振り返る時間を設け、再度書く活動を行うことにより、自分の気付きを視覚化して捉え直し、考えを明確にできるようにしていきたいと考える。

本単元では、物語を読んで、自分が考えたことを（ミニ）ビブリオバトルを通して伝え合うことを言語活動として設定した。単元の始めに、ビブリオバトルを行うことを見通しとしてもたせる。学習課題ごとにごんの気持ちを考えていき、最後にはミニビブリオバトルを行う。このミニビブリオバトルは、本来のビブリオバトルをアレンジさせている。ごんがどのような気持ちでいるのかを叙述を基

に読み取り，読み取ったものをグループで交流し，ミニビブリオバトルを行う。その後五次では，新美南吉の書いた本から自分が紹介したい作品を選ばせ，ビブリオバトルを行う。自分が判断の根拠としたことを他者と比べることを通して，自らの感想や考えを見つめ直すとともに，物語に対する理解をより深め，一人一人の感じ方の違いを認めることができるようにしたい。

8 単元の指導計画（12時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
0		<ul style="list-style-type: none"> ○新美南吉の絵本を教室に置いておく。 ○新美南吉の紹介（写真など掲示）をする。 ○ビブリオバトルの映像を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新美南吉について興味をもつことができるようにする。 ・ビブリオバトルについて知り，学習の見通しをもてるようにする。 	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を捉え，見通しをもつ。 ○全文を通読し，ごんがどんなきつねかを話し合い，初発の感想をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいと言語活動の内容を具体的に示し，学習の見通しがもてるようにする。 ・疑問に思ったことを初発の感想として書くようにする。 	
二	2	○学習課題（バトルテーマ）を設定する。	・場面ごとに学習課題を出し合い，設定していくことで，物語のあらすじをつかむようにする。	
三	3 ・ 4 ・ 5 本時 ・ 6 ・ 7	○学習課題に沿って，ごんの行動や気持ちについて考える。	・人物像を捉える際には，叙述を基づいて自分の考えを伝えることができるように促す。	<ul style="list-style-type: none"> ◎辞書などを使って，登場人物の気持ちを表す語句を知り，文脈に合わせて使っている。〔知①〕 【発言・バトルカード】 ○場面と場面を結び付けたり，友達の考えと比べたりして，登場人物の気持ちの変化を読み取っている。〔思②〕 【発言・バトルカード】 ◎友達の感想や考えを聞

				き, 感じ方などに違いがあることに気付いている。〔思①〕 【発言・バトルカード】
四	8 ・ 9	○ミニビブリオバトルの準備をする。「ごんぎつね」の魅力をまとめる。	・ごんの行動や気持ちを整理し成長を捉えるようにする。	○場面と場面を結び付けたり, 友達の考えと比べたりして, 登場人物の気持ちの変化を読み取っている。〔思②〕 【発言・バトルカード】
		○ミニビブリオバトルを行い, 「ごんぎつね」の魅力を伝え合う。	・共有したごんの成長を, 根拠となった物語の表現を生かして発表させる。	◎友達の感想や考えを聞き, 感じ方などに違いがあることに気付いている。〔思①〕 【発言・バトルカード】
五	10 ・ 11	○紹介したい新美南吉の本を選び, 紹介する内容を考える。 ○作成したカードを基に, ミニビブリオバトルを行う。	・並行読書を行い, 読書の幅を広げておく。 ・友達との交流を親しむようにする。	◎友達の感想や考えを聞き, 感じ方などに違いがあることに気付いている。〔思①〕 【発言・バトルカード】
		12	○ビブリオバトルを行い, チャンプ本を決める。	・一人一人の見方に触れたり, 本の面白さを共有したりする中で, 楽しさへとつながるようにする。

9 主体的な伝え合いのために

主体的な伝え合いを行っていくために, (ミニ) ビブリオバトルという児童が興味関心をもてるような言語活動を設定した。(ミニ) ビブリオバトルでは, 自分の考えをしっかりと伝え合う時間を設ける。教材文を読む際にも, ペアトークやグループトークを取り入れ, 自分の考えを伝える時間を設けるようにする。友達との共通点や相違点などに気付き, 新たな発見をさせていきたい。

<主体的な伝え合いを目指す指導系統表>

	低学年	中学年	高学年
目的	・ 友達のよいところを見付ける。 ・ 友達と話をつなげる。	・ 自分の考えと友達の考えを比べる（共通点・相違点）。	・ 自分の考えを広げたり、まとめたりする（整理・関係付ける）。
方法	・ ペアトーク	・ グループトーク ・ 学級全体で話し合う。 （司会を立てて、順番を決めて等）	・ フリートーク ・ それぞれの立場から伝える。
内容	・ 友達と確かめる。 ・ 感想を伝え合う。 ・ 紹介する、説明する、報告する。	・ グループに分ける。 ・ 調べたことを伝え合う。 （説明、報告等）	・ 意見や提案を伝え合う。
場	感想の交流・集団解決・振り返り・発表会・報告会 など		
伝え合いを支える 日常の継続的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 亀っ子10（まなびの約束） ・ 亀崎メソッド ・ 亀崎いっぱい運動（時間いっぱい話す・文をいっぱい読む・マス目いっぱい書く） ・ 聞き方名人・話し方名人（つながり発表） ・ 読書の記録（「言葉のたから箱」のことばを使って書く。）年間20冊以上を目標 		


10 本時の学習（第二次5時）

(1) 目標

ごんの気持ちについて考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 前時までの学習を振り返る。	・ 自分のバトルカードを見て、前時のごんの気持ちを振り返っておくようにする。	
2 めあてを確認する。		
めあて ごんの行動や気持ちの変化を考え、友達と伝え合おう。		
3 本時の学習課題を確認する。		
なぜ、ごんは、兵十の家にくりや松たけを持って行ったのだろうか。		
4 ごんの気持ちをバトルカードに書く。	・ 叙述を基に想像することを確認する。	

<p>5 書いたカードを使って交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ交流 ・全体交流 <p>6 バトルカードを読み合い、交流する。</p> <div data-bbox="363 943 544 1137" style="text-align: center;"> <p>伝え合う</p>  </div> <p>7 自分のカードを見直す。</p> <p>8 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動や情景を表す部分に線を引かせる。 ・児童から出た考えを黒板に書かせ、その後、似た考えや異なる考えを加えていくようにする。 ・出た意見に対して疑問があれば、質問する時間を設け、様々な意見を出させ、ごんの気持ちを深く考えていけるようにする。 ・情景やごんの行動から想像した気持ちを指し示しながら、話し合うようにする。 ・自分の考えと友達の考えを比べながら聞くようにする。 <div data-bbox="587 1104 1007 1435" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><主体的に伝え合うために></p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋を使い、自分の考えとの共通点・相違点を相手に伝え、感じ方の違いを視覚化できるようにする。 ・どのような表現がよかったのかを共有する。 </div>	<p>◎友達の考えを聞き、感じ方などに違いがあることに気付いている。(思①)【発言・ビブリオバトルカード】</p>
--	---	---